



プログラムをお使いになる方へ

山梨県



目次

1. はじめに

2. プログラムの構成

(1) 対象者

(2) 全体像

(3) プログラムの特徴

(4) プログラム一式

- ・「理念、目的、目標」と「実践で大切にしたい5つのこと」
- ・トピックと具体的な言語活動一覧
- ・活動指針（レベル別目指す姿と活動の目安）
- ・活動集
- ・活動の解説
- ・活動の記録
- ・プログラム評価のための質問紙（終了時アンケート）

3. プログラムを実践する人の役割

(1) 日本語教師の役割

(2) とともに活動をする人の役割

(3) コーディネーターの役割

4. 「活動集」と「活動の解説」の構成

1. はじめに

「やまなし日本語教育プログラム」(以下、本プログラム)は、山梨県に暮らす誰もが自分らしく生きることができる地域社会の実現を願い、その一助となることを目指しています。

プログラムの参加者が日本社会での自己実現に向けて必要な学びに主体的に取り組み、ことばを用いた活動を通して人間関係を育みながら、自分らしく社会の中で生きていくことを支えるプログラムです。

この「プログラムをお使いなる方へ」は、本プログラムを活用する実践者のみなさんの活動の手がかりとなるよう作成しました。プログラムを活用する際に、はじめにお読みください。

日本語を介した実践の場は、ことばを学ぶ場であると同時に、一人ひとりの人生や生き方を、これまで歩んできた経験を、ことばを通して分かち合う場でもあります。本プログラムを活用した実践の場が、単なる学習活動にとどまらず、人々の関係を育み、新たなつながりを生み出すこと、また、そこに集うだれにとっても“その人らしく”いられる居心地のよい場所になることを願っています。

2. プログラムの構成

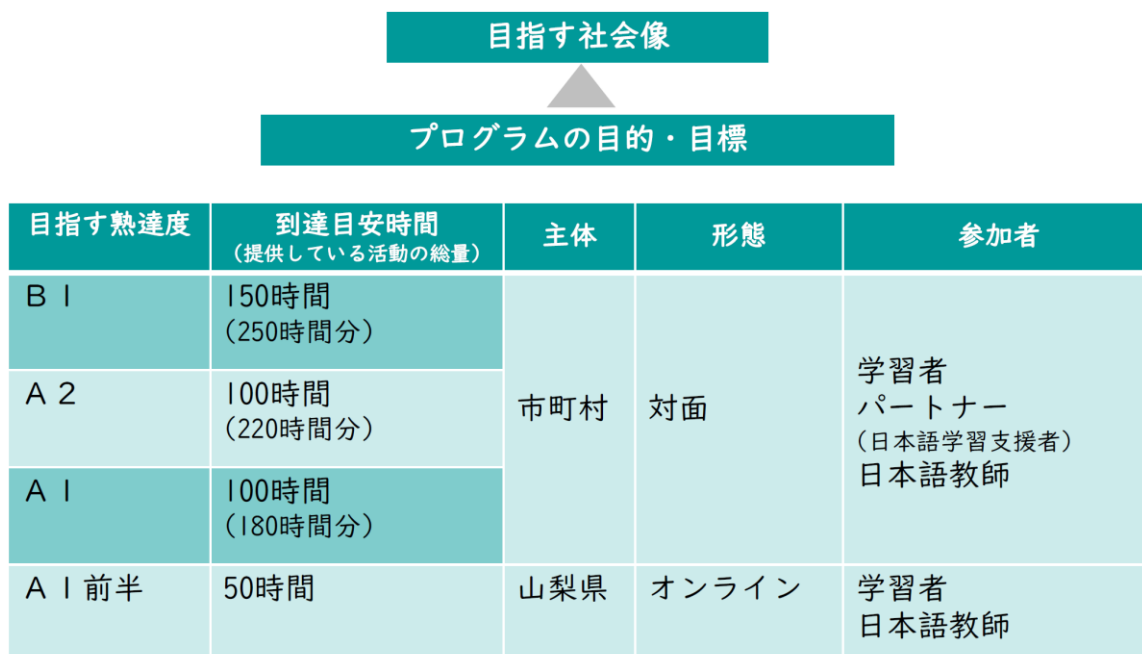
(1) 対象者

国籍や在留資格を問わず、日本社会で生活する「外国にルーツを持つ方々」を対象としています。

(2) 全体像

本プログラムは、「やまなし外国人活躍ビジョン」¹に基づく方向性と「やまなし多文化共生社会実現構想」²の理念を実社会で具現化していくことを目指したものです。

「多様な価値観を認め合い、誰もが活躍できる共生社会の実現」に向けて、『日本語教育の参照枠（報告）』（2020,文化庁）³の全体的な尺度に基づいたA1からB1レベルまでの「ことばの活動」⁴を体系的に整理しています。



¹ <https://www.pref.yamanashi.jp/documents/108129/gaikokujinkatsuyakuvision2023.pdf>

² <https://www.pref.yamanashi.jp/documents/110370/tabunkashakaijitsugenkousou.pdf>

³ https://www.bunka.go.jp/seisaku/bunkashingikai/kokugo/hokoku/pdf/93736901_01.pdf

⁴ 本プログラムにおける「ことばの活動」とは、他者と関わり合いながら意味をやりとりし、その場の状況や関係性をともにつくっていくコミュニケーションの営みのことである。

(3) プログラムの特徴

本プログラムは参加者同士が学び合うことを前提として設計されています。講義形式による知識伝達ではなく、参加者同士が関わり合いながら「ことばの活動」に取り組むことを基本としています。

また、本プログラムで扱う言語活動は、山梨県における言語使用の実態調査に基づき選定されています。これにより、参加者が実生活で必要とする言語活動に対応できるように設計されています。

参加者は、これらの活動の中から、自身の目的や状況等に合わせて学びを選択することができます。また、参加者と関係者（自治体や企業の担当者等）がトピックや活動を一緒に選んだり、実情に合わせて追加したりすることで、それぞれの状況に応じた柔軟なカリキュラムを構成することも可能です。

(4) プログラム一式

■「理念・目的・目標」と「実践で大切にしたい5つのこと」

○プログラムが目指すことや実践における考え方を示しています。

これらは、本プログラムの考え方の根幹をなすものです。

- ・プログラムを活用するにあたっては、何度も立ち返る拠り所としてください。活動を設計したり、プログラムを活用する「場」を構成したりする際には、これらを参照し、方向性や目標とのつながりをお確かめください。

■トピックと具体的な言語活動一覧

○プログラムで扱っているコミュニケーション場面とその場面において行われる言語活動を整理した一覧です。コミュニケーション場面として40のトピックを提示しています。それぞれの場面で想定される具体的な言語活動をA1、A2、B1⁵のレベル別で示しています。

- ・各トピックで扱われる言語活動の内容やレベルを確認し、カリキュラム作成の参考としてください。

⁵ 『日本語教育の参照枠（報告）』全体的な尺度に基づく言語熟達度

■活動指針（レベル別目指す姿と活動の目安）

○本プログラムにおける目指す姿と言語活動の目安をレベル別に示しています。活動の目安は5つの言語活動（「読む」「聞く」「やりとり」「発表」「書く」）ごとに、それぞれのレベルにおいて推奨される活動の水準を整理したものです。

- ・実践している活動が目指す姿につながっていくかを検討する際に用います。また、活動の目安は、活動集を使用する際、レベルに応じた活動の捉え方や構成を理解するための参考になります。さらに、活動を加える際の手がかりとしても役立ちます。

■活動集

○活動集は、具体的な言語活動を実践の場で実施できる形にしたものです。トピックごとに複数の活動が用意されています。これらの活動は、参加者が日々の暮らしの中で経験する場面をもとに、現実に応じた形で活用できるよう作成されています。

- ・活動集はいわゆる教科書のように内容を順に学習することを前提としたものではありません。また、言語活動を達成するために文法や語彙、表現を暗記するような学びに導くものでもありません。参加者が自身の状況に合わせて、気づきや発見を得るための出発点となるものです。自身の経験や考え、思いを自分のことばで表現し、広げていく素材として活用してください。

■活動の解説

○トピックごとに用意されています。活動集で扱われている活動の一つひとつについて、具体的な言語活動と対応するレベルを整理したものです。

- ・それぞれの活動が、どのような言語行動をもとに構想されたか、また、どのレベルを想定しているか確認できます。これらを踏まえ、活動を選択することができます。

■活動の記録

○参加者がこれまでの活動を記録するものです。どの活動をいつ行ったかを記録するポートフォリオです。

- ・記録をすることで、自身の学習の歩みを振り返り、今後の学習を計画することもできます。さらに、学習の状況を周りの人と共有することも容易になります。

■プログラム評価のための質問紙（終了時アンケート）

○プログラムで掲げている目標がどの程度達成されているかを把握するための参加者アンケートです。プログラムの目標を具体的な行動として示した質問で構成されています。

- ・プログラムの終了時に参加者に回答してもらいます。アンケートの結果は、実践現場において、プログラムがどのように機能していたかを把握するための資料として活用することができます。また、このアンケートは、実践者が自らの実践を振り返るための手がかりとして位置づけることもできます。この結果を活動や進め方を見直すヒントとし、今後の実践の改善に活かしてください。

3. プログラムを活用する人の役割

（1）日本語教師の役割

本プログラムにおける日本語教師は、知識を一方向的に教える存在ではなく、参加者一人ひとりの思いや経験に寄り添いながら、ことばを引き出し、活動を生み出す「場のデザイナー」であり「学びの伴走者」としての役割を担います。そのため教師は、参加者同士が互いに関心を持って聴き合い、学び合う協働的な活動を意図的に設計する必要があります。目の前の参加者の日本語力に柔軟に対応しながら、参加者同士が一緒に考え、学び合う「ことばの活動」を支えていってください。

（2）ともに活動をする人の役割

本プログラムは、外国にルーツがある方々と、地域住民ボランティアや企業の方々等と一緒に参加することも想定してつくられています。ともに活動をする人は、外国にルーツがある方々と語り合い、一緒に考える役割を持つとともに、実践の場と日々の生活とをつなぐ役割も持ちます。

（3）コーディネーターの役割

地域日本語教育コーディネーターは、実践の現場と関係者（行政、地域、企業、専門機関、団体等）をつなぐ存在です。実践の場を設け、円滑な運営に導くための調整役であると同時に、実践の場が持続可能な仕組みとして機能するための環境づくりにも取り組みます。

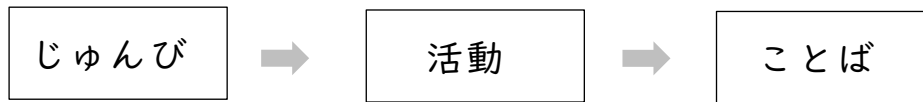
実践現場の計画、カリキュラム策定、日本語教師をはじめとした実践者や関係者との調整、人材研修の企画と実践、課題共有と改善案の提案など、現場を総合的に支援する役割を担います。

4. 「活動集」と「活動の解説」の構成

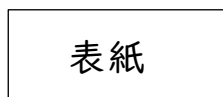
■ 「活動集」の構成

トピックごとに活動集が用意されています。

1トピックの活動集の構成は次のようになっています。



構成に沿って、項目を紹介していきます。



あんぜん く
安全に暮らす

110番や119番に 電話したことはありますか？
このトピックでは、事件や事故のときに何をしたらいいのかわかることができます。

8

トピック名

トピックで扱う内容やできることを紹介しています。

トピックの通し番号です。

じゅんぴ

I-8

じゅんぴ 救急車、消防車、パトカーを呼んだことがありますか。

いつ、どこで、どんなときに 呼びましたか。



トピックについて、スキーマの活性化を図ります。

活動

C 交番に行く I-8

■ さいふを落として、交番に来ました



あなた : ああ、すみません。

警察官 : どうしましたか。

あなた : さいふを落しました。

警察官 : いつ、落しましたか。

あなた : わかりません。たぶん、今日の午後だと思えます。

警察官 : どこで落としたか わかりますか。

コミュニケーション場面別に

「やりとり」

↓

「たいせつなかわ」

↓

「タスク」

が示されています。

I-8

たいせつな かわ

警察官 : 中に何が入っていますか。

あなた : お金と在留カードです。

円滑なコミュニケーションにつながる

キーとなる表現です

★ いままで、何かをおとしたことが ありますか。

まわりの人とはなしましょう。

Q. いつ おとしましたか。

Q. どこで おとしましたか。

★★ 持ち物（財布やかばん、スマートフォンなど）の特徴を説明
しましょう。

- ・形
- ・大きさ
- ・色
- ・模様/デザイン
- ・ブランド、機種 など

★の数はタスクの難易度を表しています。

★：A1レベル

★★：A2レベル

★★★：B1レベル

※活動集は会話を暗記したり、語彙や文法を一律に覚えたりすることを目的としていません。

トピックやタスクを入口に、参加者一人ひとりが自分自身に関することばや表現を伝える素材として位置づけています。参加者の“じぶんごと”が中心の「ことばの活動」を行うことを目的に作成されています。

ことば

ことば

	よみかた	いみ (くにのことばでOK)
① 事故	じこ	
② 火事	かじ	
③ 救急車	きゅうきゅうしゃ	
④ 消防車	しょうぼうしゃ	

トピックのキーワードとなることばをまとめています。母語と対照して整理できる構成です。ことばの整理だけでなく、漢字習得の自律学習としても活用できます。

■「活動の解説」の構成

トピックごとに用意しています。それぞれの活動がどのような具体的な言語活動を目指しているか、どのレベルに対応しているかを示しています。

I 健康・安全				
No.	8	トピック	安全に暮らす	
コミュニケーション場面				
A 1	緊急時に助けを求める			
A 2	緊急時に助けを求め、簡単な説明ややりとりをする			
B 1	緊急時に助けを求め、詳細な説明ややりとりをする			
活動	具体的な言語活動		レベル	
A	警察や救急車を呼ぶことができる		A 1	A 2
B	119番に電話し、火事や救急か、場所はどこか、誰がどんな様子かなどについての質問に短い簡単なことばで答えることができる			A 2
C	落とし物をした際に文書で、いつ、どこで、何を落とししたか伝えることができる		A 1	A 2
D	自分が被害を受けた盗難、自転車盗、空き巣などの予想しないトラブルについて、警察官や近所の人などに順序立てて、ある程度詳しく説明できる			B 1
活動作成者からひと言				
この活動は、緊急時に躊躇することなく助けを求められるようになることを目指しています。知識として理解するだけでなく、やりとりを通して実際の場面を想定しながら体験的に学ぶことを大切にしてください。				

活動のねらいやポイントを紹介しています。

■活動の記録

No.	トピック	活動内容	活動した日と記録した日 y / m / d (例：2024/04/01)		
			★	★★	★★★
8	緊急に助けを求めよう				
9	自分の住んでいる場所を説明しよう	1 宿題や宿題を返す			
10	引っ越しの準備しよう	2 近所の施設や場所を説明しよう			
11	家をさがそう	3 緊急、緊急な状況や状況を説明しよう			
12	家の場所を説明しよう	4 宿題を返す			
13	近所を探そう	5 ドラッグストアで薬をさがそう			
14	近所を探そう	6 近所や地域の施設や場所を説明しよう			
15	近所を探そう	7 文庫ルールの説明しよう			

参加者が使用するポートフォリオです。学習の歩みを記録します。